



# 美田むねあき

み た

発行：埼玉県議会自由民主党議員団  
美田むねあき県政事務所 三郷市采女1-91  
TEL：048-951-5826  
FAX：048-951-5926

今年度の所属委員会 文教委員会／少子・高齢福祉社会対策特別委員会



▲美田県議は県議会12月定例会で一般質問に登壇しました（質問の内容は2頁に掲載）。

## 新年を迎え志をさらに高く

平成29年は世界的にも4月のフランス大統領選挙、韓国大統領選挙など方向性の転換を伴う大きな選挙がありました。一方、三郷市でも夏の三郷市議会議員選挙・秋の総選挙があり、新たな顔ぶれが今後の政治を担う事となるなど、国内外において政治イベントの多い年でした。また、私としては自民党県議団に所属したことで活動の幅が広がり、地域の課題にも厚みを増して対応出来るようになりました。

これからも国県市の協力体制を確固たるものとして、信念を持って「将来を見据えた政治」を念頭に職責を全う致します。

埼玉県議会議員

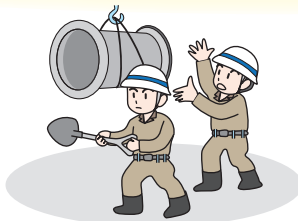
美田 宗亮

### 県議会12月定例会 補正予算/一般会計

# 7億8,920万9千円

《補正後累計 1兆8,699億4,618万7千円》

県議会12月定例会は12月4日から22日まで開催され、補正予算（一般会計）7億8,920万9千円（補正後累計1兆8,699億4,618万7千円）をはじめ、自民党県議団が提案した「小規模企業振興基本条例」等を議決し閉会しました。補正予算の主な内容は、台風21号による災害からの復旧（3億4,999万4千円）、老朽化した排水機場などの長寿命化（4億3,921万5千円）になります。



### 平成29年度 12月補正予算の内訳

- 公共事業の施工時期の平準化・適正工期の確保
    - \*ゼロ債務負担行為の設定、繰越明許費の早期設定
  - 台風21号による災害からの復旧
    - ..... 3億4,999万4千円
    - \*土木施設（道路・河川・砂防）..... 3億2,600万円
    - \*農林施設（農業用施設）..... 2,107万8千円
    - \*社会福祉施設（障害者福祉施設）..... 291万6千円
  - 老朽化した排水機場などの長寿命化
    - ..... 4億3,921万5千円
- <全額繰越明許費を設定>

### 死亡事故多発を受け、埼玉県が「交通死亡事故多発緊急事態」を発表

#### ①歩行者事故が多発

特に高齢歩行者の事故が多発しています。道路を横断する際は、左右の安全を十分に確認しましょう。

\*歩行者事故の死者数が61人（+15人）と大幅に増加しており、その内高齢者が約8割を占めています。



#### ②交差点通過時の安全確認

死亡事故の半数以上が交差点や交差点付近で発生しています。十分な安全確認をお願いします。

\*交差点やその付近では、歩行者や自転車に特に注意を払うなど、思いやりのある運転と安全確認の励行をお願いします。



#### ③夕方から夜間は要注意

夕方から夜間の交通事故が多発しています。夜間に外出する際は明るい服装や反射材を着用しましょう。ドライバーの方は、早めのライト点灯とハイビームの適正な使用をお願いします。

\*交通死亡事故の約6割が夜間帯に発生しています。特に18時から20時までの間に多発しています。



### 自民党県議団が立案・提案 埼玉県小規模企業振興基本条例を議決

小規模企業が経済社会状況の変化に柔軟に対応して経営を持続していくことは、また新たな事業展開をされることは、地域全体の活性化につながるものであり、極めて重要です。国では小規模企業振興基本法を制定するなどしている中、国の動きとも連携しつつ、県が小規模企業の振興に危機感をもって一層積極的に取り組む必要があると考えます。

そこで自民党県議団では、小規模企業の振興に関する県の施策の基本方向を定める条例が必要と考え、議論を重ね、12月定例会において提案しました。

同条例は小規模企業の振興の基本となる事項を定め、小規模企業の事業の持続的な発展を図ることにより、県経済の活性化及び県民生活の向上に寄与することを目的としています。

# 地域と県政を結ぶ掛け橋として

## 県に対し鋭く質問 提言

美田県議は県議会12月定例会で一般質問に登壇（12月13日）。「(仮称)三郷流山橋の整備について」をはじめ「東部地域の救急医療体制について」など、9項目11件に渡って県の施策に対し質問し、提言等を行いました。本号ではその内容を抜粋し報告いたします。

### Q&A 教職員の長時間労働について

**Q 美田県議** 教職員の長時間労働が大きな社会問題となっている。文部科学省による平成28年度の教員の勤務実態調査によると、国が示す「過労死ライン」に達する週20時間以上の「残業」をした教員が多いことが明らかとなった。教職員の働き方、を改善することは、教職員だけの問題ではなく、未来を支える子供たちの健全な育成のために取り組むべき重要かつ喫緊の課題だ。そこで、教職員の長時間労働を減らすため、人的措置を含めどのように取り組んでいくのか伺いたい。

一方、部活動指導については、平日の活動時間は原則2時間以内、週休日は原則どちらか1日を休養日とすることを平成28年3月に通知していると聞いている。しかし通知が徹底しきれず、長時間の活動を行ったり、休養日が適切に設けられていない現状がある。適切な部活動の運営について、今後どのように取り組んでいくのか伺いたい。

**A 教育長** 県では、学校に対して行う調査等を2割削減するなど、負担軽減に努めている。また、毎月の給与支給日を「ふれあいデー」として、定時退勤を奨励するなど、教職員の意識改革にも取り組んでいる。さらに、今年度は国の委託を受け「学校現場における業務改善加速事業」にも、伊奈町をモデル地域として調査研究に取り組んでいる。

文部科学省では、平成30年度の概算要求において、教職員の定数増と新規に教員の業務支援を行う「スクール・サポート・スタッフ」を要求しており、国からの予算をしっかりと確保するとともに、さらなる人的配置について国に要望していく。

部活動については、今年度は県立学校や公立中学校を対象に実態調査をした。その結果を受け、平日2時間を超えて活動している学校などを訪問し、適正化に向けた指導を行ってきた。今後もあらゆる機会を捉えて、適正化を図っていく。

### Q&A ラグビーワールドカップ2019の成功に向けた気運醸成について

**Q 美田県議** 今から20数年前、私も高校・大学とラグビー部に所属し青春を過ごした。ラグビーは他のプレイヤーの犠牲のうえにトライが生まれるスポーツ。チームワークを重視し、監督は観客席にあり、ゲームが始まればキャプテンが全責任を負う。社会生活に必要なことは全てラグビーで学べるといっても過言ではない。

しかし「ラグビーワールドカップ2019」開催まで2年を切ったにもかかわらず、県内全体の盛り上がりという点で不安がある。県南地域はサッカーや野球のプロチームもあり、ラグビーに対する注目度はそう高くない。きめ細かいPRを繰り返し、盛り上がりを埼玉県全体に広げていく必要があると考える。県はラグビーワールドカップの成功に向けて、どのように県内全域で気運を醸成していくのか伺いたい。

**A 県民生活部長** 平成29年度は36の集客イベントに延べ48日間、PRブースを出展している。さらに、ラグビーワールドカップをデザインしたラッピングバスを熊谷駅、浦和駅、大宮駅、所沢駅など利用者の多い沿線を中心に運行している。今後は、県内各地で日本代表戦のパブリックビューイングを順次開催し、気運を盛り上げていきたい。また、フェイスブックやツイッターなど、ソーシャルメディアを拡充し、情報発信の強化に努める。

ラグビーの普及については、県ラグビー協会と協力し、タグラグビーの県内全小学校への普及に取り組んでいる。その結果、県内に18あるラグビースクールの加入者数は増加しており、大会後のレガシーを支える裾野も広がりつつある。オール埼玉でスクラムを組み、県内全域での気運情勢に全力で取り組んでいく。

### Q&A 東部地域の救急医療対策について

**Q 美田県議** 地元の三郷市を含む東部地域（東部南救急医療圏）は6市1町で構成され、人口約115万人を抱えている。この地域の平成28年の救急搬送人員は速報値では過去最多の4万4千件を超えた。高齢者の増加などを背景に、救急搬送人員は今後もますます増えると思込まれる。県としては、隣県も含めた地域の医療機関の連携を促進して、救急医療体制を強化していくべきではないか。

東部地域の救急医療の現状について、他の地域と比較して搬送時間や受入照会回数などの実態はどのようなになっているのか伺いたい。また、東部地域は他の地域と比較してどのような課題を抱えていると捉えているのか。さらに今後の対策について伺いたい。



(埼玉新聞/平成29年12月14日付)

**A 保健医療部長** 搬送時間については、平成28年の県平均が43.6分のところ東部地域は全般的に長く、三郷市消防本部は45.4分になっている。救急隊から医療機関への受入照会が4回以上となった割合も、県平均が4.1%のところ、東部地域は9.8%と悪い。

東部地域の課題については、消化管出血の患者や精神身体合併症患者の受入体制の整備が課題となっている。そこで平成29年4月から、消化管出血に対応した7つの専門病院による輪番体制を実施。8月からは、2つの救急病院と1つの精神科病院が連携し、救急患者の受け入れや転院を円滑にする取り組みを始めている。今後、受入体制の検証を行い、さらに円滑となるよう努めていく。

また東部地域から東京都へ約2,200人、千葉県へ約1,500人が救急搬送されており、他県への迅速な救急搬送も課題と捉えている。現在、千葉県の4つの医療機関に、本県の救急医療情報システムに受け入れ情報を入力頂いている。今後は千葉県のほか東京都の医療機関も含め、本県の救急医療情報システムに参加して頂き、連携を強化していく。

### Q&A (仮称)三郷流山橋の整備について

**Q 美田県議** 埼玉県と千葉県境に新たな橋りょうを建設し、スムーズな交通が確保されることによる経済波及効果は、地元地域のみならず県全体としても非常に大きなものになると考える。

先日(11/28)私は、三郷市長をはじめとする地元要望団体、山下県議とともに、有料道路事業を導入して(仮称)三郷流山橋の早期供用化を上田知事に要望した。また、三郷流山橋に近接する常磐自動車道の三郷料金所スマートインターチェンジについても、国に対して早期実現を働きかけるよう要望した。

以上を踏まえ、県は有料道路事業を導入し三郷流山橋の早期整備を図るべきと考えるが、現在の進捗状況と今後の見通しについて聞きたい。あわせて三郷料金所スマートインターチェンジのフルインター化について、県はどのように取り組んでいくのか伺いたい。

**A 県土整備部長** (仮称)三郷流山橋は、これまでに橋りょう本体や取付道路の設計、用地測量などを実施し、平成28年3月から用地買収に着手したところ。現在の用地買収率は55%。引き続き用地買収を進め、順次工事に着手していく。

有料道路事業制度については、採算性確保はもとより地元の皆さまのご理解が重要。有料道路事業制度導入の検討も含め、地元の皆さまのご理解、ご協力を頂きながら、早期の供用を目指していく。

三郷料金所スマートインターチェンジのフルインター化については、国など関係機関と協議を進めている。県は三郷市の意思を尊重し、市に対する技術的な助言や関係機関との調整などの支援に努めていく。

▲本会議場傍聴席を埋め尽くす傍聴者。この日、美田県議の一般質問を傍聴するため、地元・三郷市の住民の皆さんがバスを運んで駆けつけてくださいました。

### 三郷流山橋と三郷料金所スマートICフル化の整備促進を求め 要望書を県議会議長に提出



12月15日、地元三郷市長はじめ市議会議員・関係委員長とともに、県議会議長および「県議会東埼玉道路および周辺開発促進議員連盟」に対し、(仮称)三郷流山橋と三郷料金所スマートICフル化の整備促進を求める要望書を提出しました。11月29日には上田知事に対しても同要望書を提出しています。私も地元選出の県議会議員、東埼玉道路および周辺開発促進議員連盟の両方の立場であり、その責務を果たすため早期完成に向けて頑張ります！

### 美田宗亮県議の一般質問の全項目 (県議会2月定例会/平成29年12月13日)

1. 教職員の長時間労働について……………【教育長】
2. 児童・生徒の学力向上について……………【教育長】
3. ラグビーワールドカップ2019の成功に向けた気運醸成について……………【県民生活部長】
4. 企業誘致について……………【産業労働部長】
5. 東部地域の救急医療対策について……………【保健医療部長】
6. 「生涯現役」の推進について……………【産業労働部長】
7. 海外留学の支援について……………【県民生活部長】
8. 流域下水道事業の温室効果ガス削減対策について……………【下水道事業管理者】
9. 地元問題について
  - (1) つくばエクスプレスの利便性向上について……………【企画財政部長】
  - (2) 県営みさと公園について……………【都市整備部長】
  - (3) (仮称)三郷流山橋の整備について……………【県土整備部長】

※一般質問の全文は、埼玉県議会のホームページをご覧ください。  
→ <http://www.pref.saitama.lg.jp/s-gikai/index.html>